

平成 16 年度ホタテガイ採苗情報 (第 5 報)

平成 16 年 5 月 14 日

発行：岩手県水産技術センター

協力機関：沿岸地方振興局水産部

「県中部で付着稚貝数が増加している一方、
中南部以南では横這いなしは減少しています。」

1 ラーバの出現状況

5月12日に唐丹湾でラーバ調査を行いました。

ホタテガイラーバの出現数は、200μm未満が10個/トン、200μm以上が14個/トンと、前回調査時(合計19個/トン)よりやや増加しました。

なお、調査時の水深10m層の水温は9.2℃と、前回調査時より1.7℃上昇し、平成9~15年の平均値とほぼ同じ値となっています。

2 試験採苗器による付着稚貝調査

5月10日以降の調査において、宮古、釜石および大船渡地区の各定点で付着稚貝が確認されました。

しかし、付着稚貝数は6~293個/袋と、各定点間でばらつきが大きくなっています。宮古地区で増加している一方で、釜石地区と大船渡地区南部で横這い、大船渡

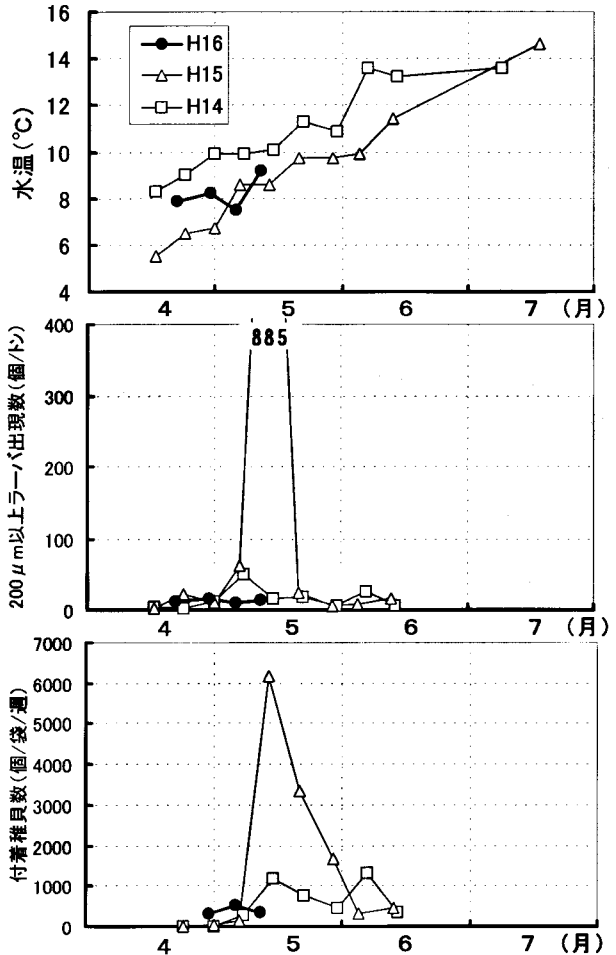


図 唐丹湾における水深10m層水温とホタテガイラーバ・付着稚貝の出現状況

地区南部では減少しています。

なお、唐丹湾では、付着稚貝の約8割が付着直後の個体でした。

県中南部では、大型のラーバと付着稚貝が確認されています。しかも、付着直後の稚貝が多数確認されていることから、稚貝の付着は続いているものと考えられます。

次報は、5月21日頃発行する予定です。

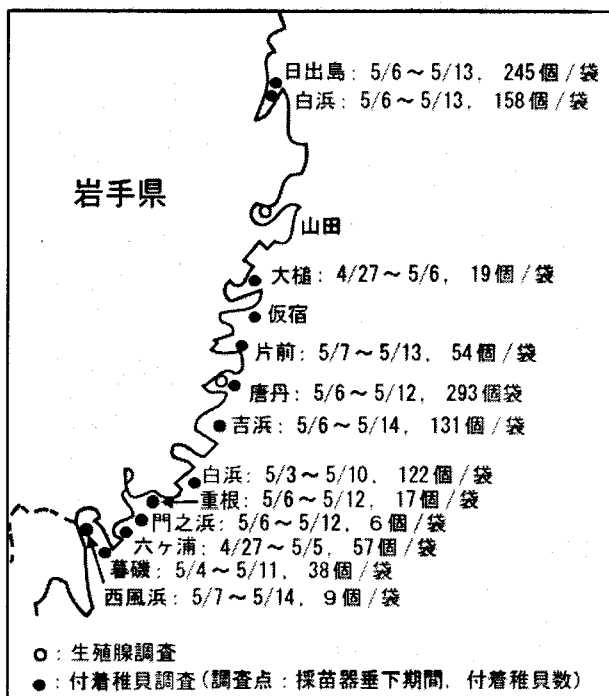


図 調査点と付着稚貝調査結果